

中丸地区自治会防災・避難訓練 実施要領

1 実施目的

近年における自然災害の甚大化を受け、地区内の自助、共助の意識を高め、防災に対する意識高揚と情報共有を目的に防災初動訓練を実施する。併せて非常食の体験をする。

2 実施日時

令和6年11月2日（土） 雨天時は翌3日（日）
午前9時から13時まで

3 参加者

各单位自治会関係者及び地区自治会運営委員

4 訓練想定

茨城県沖を震源とする地震により、村内において震度5弱を観測し地区内においてもけが人が発生し、食料及び飲料水の確保が困難になっている。

5 訓練内容

（1）情報収集、伝達及び通信訓練

- ・自治会内の被災状況を収集し、報告様式に記載しコミセンまでFAX送信する。
- ・防災無線機にてFAXの着信と報告内容を確認する。
- ・単位自治会から被災状況を伝える。

（2）避難訓練

- ・家屋内の火の元を確認する。
- ・電源ブレーカーを切る。
- ・非常持ち出し品を持ってマスク持参の上、コミセンまで避難する。
- ・コミセン到着後、受付を済ませ所用時間を記入する。

（3）マンホールトイレ組立訓練

- ・コミセン備品倉庫からマンホールトイレを取り出し、進入禁止の措置をして組立を行う。

（4）非常食体験/意見交換

6 タイムスケジュール

9：00	茨城県沖にて地震発生。コミセンから防災無線機にて単位自治会内の被災状況の収集と報告を依頼
9：30	コミセンに向け、避難開始
10：00	避難者受付開始
10：30	マンホールトイレ組立開始
11：30	非常食体験/意見交換

報告先 中丸コミセン 行
 FAX : (287)3158
 電 話 : (287)2128 (287)3158 (287)3770
 無線機 : CH17 ユーザーコード 373
 メール : nak-com@vill.tokai.ibaraki.jp

被害報告書

第 報	自治会名：				
	発信日時	年 月 日 () 時 分			
	発 信 者	自治会名			
		氏 名			
		連絡先			
被害 項目	被害の状況 (○でかこむ)			備 考	
	人的被害	あり	なし	未確認	
	建物の被害	あり	なし	未確認	
	火災の発生	あり	なし	未確認	
	停電の発生	あり	なし	未確認	
	断水の発生	あり	なし	未確認	
	電話の不通	あり	なし	未確認	
	道路、橋の被害	あり	なし	未確認	
	川の増水	あり	なし	未確認	
被害の概要(自治会記入欄)	<u>被害状況：</u>				
村の対応					

訓 練 確 認 表

	F A X / M a i l	無線 / 電話連絡	特 記 事 項
須和間	:	:	
長 堀	:	:	
緑ヶ丘区	:	:	
フローレスタ	:	:	
押延	:	:	
舟石川中丸	:	:	
南 台	:	:	

令和 6 年度 防災 訓練 受付 名 簿

NO	氏 名	住 所	連 絡 先	到着時刻	所用時間
1				:	
2				:	
3				:	
4				:	
5				:	
6				:	
7				:	
8				:	
9				:	
10				:	
11				:	
12				:	
13				:	
14				:	
15				:	
16				:	
17				:	
18				:	
19				:	
20				:	
21				:	
22				:	
23				:	
24				:	
25				:	
26				:	
27				:	
28				:	
29				:	
30				:	
31				:	
32				:	
33				:	
34				:	
35				:	

R4.530 2023
 第三種郵便物認可

困難直面、平時から対策を

確保に積極姿勢自治体も

災害時のトイレ

大きな災害を経験した自治体の多くが、トイレを巡るさまざまな困難に直面してきた。識者は平時から取り組む必要性を強調。全国的な流れにはなっていないが、トイレ確保に特化した計画を策定するなど積極姿勢の自治体も出てきた。
 (27面参照)

2011年の東日本大震災で、千葉県浦安市では地盤の液状化で下水道管が被災した。最大1万世帯以上で水洗トイレが使えなくなった。市は備蓄していた組み立て式トイレの設置を進めたが、代替トイレを用意しても問題が解決したわけではなかった。

「臭いがすごい。足元は泥だらけ。つひ中もわいて私は使えない」と思っただ。当時環境シンジャー課で清掃などを担当した内田麻紀・こみせロ課課長補佐は打ち明ける。便座下から見える便槽は排せつ物でいっぱいになった。テント式のトイレは強風で倒れた。

市は、風に強いボックス型の仮設トイレなどを調達したほか、便器に取り付けて使う便袋タイプの携帯トイレ約30万枚を戸別配布。全面復旧は約1カ月後だった。

「11年前は仮設トイレや携帯トイレを手でできたが、近隣自治体が同時に対応に追われていたところだったか」と内田さん。食料や水と同様、個人が携帯トイレを備えるよう訴える。

東京都江戸川区は昨年11月、首都直下地震で帰宅困難者を含めて最大約42万人と見

マンホールトイレ

下水道管とつながれたマンホール上に便器を取り付け

簡易トイレ

持ち運びできる

携帯トイレ

便座に取り付け、凝固剤入り便袋

仮設トイレ

平時は工事現場などで使用

簡易テント

下水・排水管

主な災害用トイレ

込む避難者のトイレ確保に向けた計画を策定した。

耐震化済みの下水道施設とつながったトイレがある公園が区内には多いことに着目。防災井戸などで水源を確保し、災害時に活用する。

専用マンホールの上に便器を取り付ける「マンホールトイレ」は敷地確保が難しく、廃棄処理が大変な携帯トイレを長期間使い続けることばできないと判断したためだ。

空白解消

「数だけでなく、配置も重視している」と危機管理部の柿沢佳昭副参事。災害時に使える区内のトイレを地図に反映し、徒歩5分圏内にない地域を示した。こうした「トイレ空白エリア」の解消を進めている。

ただ江戸川区のように、トイレに特化した計画の策定状況は全国的には「進んでいない」（内閣府の担当者）。

共同通信の調査で、大規模災害で使えるトイレは「足りる見込みだ」とした自治体は少ないが、NPO法人日本トイレ研究所の加藤憲代表理事は「断水した地域では使えなくなる。避難所の想定人数だけで判断してはいけない」と指摘する。

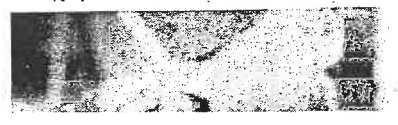
自治体に対して「迅速対応には事前の計画が不可欠で、備蓄の現状を地域住民と共有することが必要」と提案。防災や下水道、廃棄物処理、保健のほか、避難所となる学校を所管する教育委員会など多くの部署の連携が必須だと強調した。

接種率向上に苦慮

新型コロナ対応

自衛隊が運営する大規模のクラン接種会場が始まった。3回目の新型コロナウイルスワクチン接種の様子。1月、東京・大手町

が、終息は見通せない。感染対策の切り札、



全員

北朝鮮にの早期帰国を大集会「がで開かれ、家族会代表さん「失踪言せさん(53)の帰国を絶を上げ続け前代表の昨年12月にはなど被害が進む。拒代には時間うちに再会と語った。

3

新型コロ
 チンの3回

※予測は
 官邸によ

3回目予測 (8月1日)	2回目実績 (5月23日時点)	接種率	80.3%	80.0%
40%台	40%台	80.3%	80.0%	80.0%
20代	20代	80.3%	80.0%	80.0%

新型コロ
 接種率の

断水時携帯トイレ活用を

携帯トイレの使い方

災害で断水しても、建物内のトイレを利用できる

袋の中に吸収シートと凝固剤を入れ、トイレの便器に投入すると、尿は固まり、使用後は可燃ごみとして収集できる

使用後は可燃ごみとして収集されるまで保管する(市町村の確認が必要)



便器にポリ袋をかぶせておくことで、携帯トイレがぬれるのを防ぐ

能登半島地震の被災地では、断水などの影響により、避難所に限らずトイレの問題が深刻化している。NPO法人「日本トイレ研究所」の加藤寛代表理事は、断水時に建物内のトイレを利用する方法を聞いた。

加藤さんは「被災地では水がなくて排せつ物を流さず、トイレにたまった状態がかなり起きていると聞いている」と語る。トイレの水が流れない場合はそのまま使わず、携帯トイレなどを取り付けて使してほしいという。

まず、便座を上げた状態で、大きめのポリ袋(45リットル程度)で便座をすっぽり覆う。その上に便座を下ろし、携帯トイレを取り付ける。ポリ袋で便座を覆うのは、携帯トイレが便器内の水に触れないようにするためだという。

一般的に、携帯トイレは袋状になっており、排せつ

※NPO法人「日本トイレ研究所」の資料より作成

おむつや尿取りパッドも代用に

物を吸収するシートが付いているので、尿取りパッドを代用して使っても構わない。排せつ物が流れ出ないように固めたりする。使用後は袋をしっかりと閉じる。

加藤さんによると、市町村によって異なるものの、使用後の携帯トイレは可燃ごみとして回収してくれる所が多い。ごみ収集ができる状態に長きまで、生活空間から離れた場所であれ、いすにふた付きの容器に入れて保管する。

携帯トイレがない時は、おむつや尿取りパッドなどを便座を覆ったポリ袋に包むことで代用できる。ただし、新聞紙などは吸水性が十分でなく不向きだ。

トイレが不衛生な場合、自治体などは専門家の支援を得て詰まっている排せつ物を取り除き、汚れを拭き

取って清潔な状態に戻さないと取り組むのは難しいという。

「建物内のトイレが活用できることは防犯上も大事。夜間もトイレに行きやうくなり、日常生活に近づきます」

避難所などではトイレの衛生環境が悪化するなど、感染症や腸炎などの集団感染のリスクが懸念される。特にトイレに行くことを避けるため、水分や食事の摂取を控えるのは、脱水症状や栄養不足、エコノミー症候群などの健康問題のリスクにもつながる。

加藤さんは「トイレは一人になれる空間で、日常生活を支えるもの。仮設トイレの設置も含めて、緊急的な対応が必要だ」と指摘する。

【下柳雅雄子】

避難所トイレ「限界」

流す水不足 感染症リスク

能登地震

石川県能登地方の地震被災地で、避難所トイレの衛生環境が悪化している。住宅の倒壊や断水も多く、避難所生活は余儀なくされている中、流す水が不足し、感染症のリスクや、トイレを我慢し水を取り出す危険性も懸念される。

「誰も排せつできない状況だ」。

被災の大きい県北部にある珠洲市の泉谷橋町にある被災者の意見は、オンライン出席する県の対策会議で連日、避難所のトイレを巡り苦痛な叫びを聞かせる。能登市の坂口茂市長は会議で「ごみ袋の中に用を定し、1カ所に捨てている」と現状を報告。衛生環境悪化を懸念した。

珠洲市内の小中学校に避難中の60代男性は「一番欲しいのは水と紙である。仮設トイレは全くトイレの数が不足。学校のトイレ前には悪臭が立ちこめ、避難者らが悪臭を避けるのに並ぶ。断水のため、バケツでトイレの水をくみ、活用している。トイレ利用を避け、用を定す場所を探した自宅に居る人おいた」。

県によると、4月以降は仮設トイレ4基しか運ばず、大規模被害が懸念される。能登半島は道路が広域で寸断され、被災地に

は全くトイレの数が不足。学校のトイレ前には悪臭が立ちこめ、避難者らが悪臭を避けるのに並ぶ。断水のため、バケツでトイレの水をくみ、活用している。トイレ利用を避け、用を定す場所を探した自宅に居る人おいた」。

県によると、4月以降は仮設トイレ4基しか運ばず、大規模被害が懸念される。能登半島は道路が広域で寸断され、被災地に

は全くトイレの数が不足。学校のトイレ前には悪臭が立ちこめ、避難者らが悪臭を避けるのに並ぶ。断水のため、バケツでトイレの水をくみ、活用している。トイレ利用を避け、用を定す場所を探した自宅に居る人おいた」。

県によると、4月以降は仮設トイレ4基しか運ばず、大規模被害が懸念される。能登半島は道路が広域で寸断され、被災地に

みなし避難所にホテル空室利用

県田文雄知事は6日、首相官邸で開かれた能登半島地震の非被災者対策本部会議で、電気水道等の全面復旧には時間を要するとして、希望する被災者に対しては「被災地外も含め、ホテル、旅館等の空室を自治体で借り上げざるを避難所を簡便的に活用し、避難生活の改善を急務に図ってほしい」と関係自治体に指示した。

また、最大で3000戸の被災者生活再建支援金をすみやかに支給できるよう、石川県を支援面を支援するよう求めた。

【池田直】